



平成13年 7月 9日発行



北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第50号



会長 高橋 承造



事務局長 真木 孝輝



第6次研究の成果を第22回大会で

北海道国際理解教育研究協議会
会長 高橋 承造
(札幌市立苗穂小学校長)

いよいよ新学習指導要領へ移行の最終年度となりました。

各地区、そして各学校では、新学習指導要領へ向けた新たな教育への試みが果敢に実践され、着々とその成果が発表されております。

それぞれの地域や学校の特色を発揮した実践には、本当に目を見張る充実した実践が多くあり、今学校教育へ向けられている社会の期待へ応えようとする教師の意気込みを強く感ずることができます。

しかし、教育改革と言われる新しい教育実践への取り組みの中でも、本当にこれでよいのか、教師の意識改革はできているのか、授業は本当に変わったのか、これらの授業で子供に生きる力が育っているのか、評価はどうするのかなど、多くの疑問と不安がないとはいえぬのが現状ではないでしょうか。

私たち北海道国際理解教育研究協議会では平成11年度から始まった第6次研究で、「広く世界に目を開き、未来を切り拓く児童生徒の育成」を研究主題として設定し、新しい教育の主役として新設された「総合的な学習の時間」での実践の在り方を探りながら生きる力の育成の具現化にいち早く取り組んでまいりました。

それは「総合的な学習の時間」では、子供が主体となって活動する問題解決学習を通して「生きる力」を育むことが求められていることから、21世紀における重要な教育課題である地球環境や地球市民としての意識など、国際理解教育こそが子どもたちが未来への生き方を学ぶことができる学習活動であると考えたからです。

そこで本協議会では平成11年の北見大会、そして平成12年の室蘭大会と「総合的な学習の時間」を研究の中心に据え、子どもたちに地球市民としての意識を育てることに視点を置き着実に実践研究を積み重ねてきました。さらに第6次研究のまとめの年である今年度の札幌大会では、子どもたちが自分たちの身近なことから世界を意識し、そのことから自分の生活を振り返ったり見直ししながら、地球市民と市民としての意識を持って行動できるようになることをめざしています。

11月1日と2日には、第6次3年間の全道各地区の研究の成果を参会者のみなさんに提示し、来年度から実施される新学習指導要領に基づく教育活動への疑問や不安の解消に役立ちたいものと考えております。

札幌大会が新しい世紀をたくましく生き抜く子の育成を目指す、21世紀の教育の礎となることを確信し、会員皆様の力強いご協力をお願いいたします。

【 役 員 名 簿 】

顧問	中山 素水（道工業大学教授）	副会長	豊田 収（大成町立大成中学校 校長）
"	本田 哲也（初代会長）	"	橋本フミエ（札幌市立福移小中学校 校長）
"	木皿 弘勝（第2代会長）		
"	千葉 福男（第3代会長）	監査	小笠原 雅（函館市立亀田中学校 校長）
"	磯貝 登（第4代会長）	"	神代 正道（歌登町立歌登中学校 校長）
"	大泉 弘（第5代会長）		
"	石田 省子（第6代会長）	理事	樋原 永幸（釧路市立柏木小学校 校長）
"	山内 武道（第7代会長）	"	鈴木 久司（小樽市立手宮西小学校 校長）
		"	笹川 幸一（平取町立静内中学校 校長）
会長	高橋 承造（札幌市立苗穂小学校 校長）	"	青山 信一（別海町立西春別中学校 校長）
		"	松岡 勝利（清里町立清里中学校 校長）
副会長	南 信義（士別市立士別南中学校 校長）	"	舟崎 征二（砂川市立中央小学校 校長）
"	笠松 信一（幕別町立幕別小学校 校長）	"	須貝 享（倶知安町立東陵中学校 校長）
"	遠藤 優（千歳市立向陽台中学校 校長）	"	白鳥 良保（幌延町立幌延中学校 校長）
"	鞠子 順一（室蘭市立本室蘭中学校 校長）	"	田口 公紀（上磯町立石別小学校 校長）

【 事 務 局 】

事務局長	真木 孝輝（札幌市立もみじ台西小学校 校長）	庶務部長	斉藤 吉文（札幌市立みどり小学校）
		" 副部長	岡本 清豪（小樽市立長橋中学校）
次 長	後藤 宏（札幌市立創成小学校 教頭）		
"	渡辺 常彦（倶知安町立東陵中学校 教頭）	広報部長	古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）
"	中村 一治（千歳市立長都小中学校 教頭）	" 副部長	山上 昌彦（室蘭市立知利別小学校）
"	佐藤 稜子（三笠市立三笠中学校）		
"	石塚 信彦（芦別市立西芦別小学校 教頭）	会計部長	澤田 崇（札幌市立篠路小学校）
		" 副部長	藤野十志幸（千歳市立向陽台中学校）
研究部長	中村 淳（札幌市立月寒小学校）		
" 副部長	広瀬 保志（札幌市立三角山小学校）	組織部長	廣島 直（札幌市立みどり小学校）
" 副部長	類家 斉（札幌市立真駒内緑小学校）	" 副部長	橋本 直樹（余市町立余市西中学校）

平成13年度

北海道国際理解教育研究協議会事業計画

1 , 基本方針

21世紀に生きる北海道の子どもたちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

- ・学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業を通して深める。
- ・新しい教育の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
- ・各地区との交流を深めると共に、研究を支える組織の整備を図る。

2 , 事業内容 〔研究団体としての責務を果たす〕

- (1) 全道大会を開催、研究の成果を交流する。
- (2) 研究成果の交流のために、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
- (3) 「広報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
- (4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、各地区の研究推進の手助けをする。
- (5) 派遣教員と帰国教員に対して、研修会を開催し、それぞれの役割をサポートする。
- (6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集（インターネット・Eメールを含む）し、要望に応じて提供する。

3 , 今年度の重点

- (1) 第22回北海道国際理解教育研究大会札幌大会の成功を図る
 - ・研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
 - ・北海道の国際理解教育の普及に努める。
- (2) 地域に密着した各地区の研究の深化と交流を図る
 - ・研究主題を共通の窓口としながら、地区の独自性を発揮した研究を推進する。
 - ・地域、時代の要求を生かした研究を進め、会員の拡充を図る。
 - ・帰国教員の貴重な体験を活用する。
- (3) 総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を探る

平成13年度 年間事業計画一覧表

北海道国際理解教育研究協議会

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業予定	・事務局組織 ・事務局引き継ぎ		・広報発行－1 ・名簿作成 ・会費納入依頼		・ジュニアートキャンプ		・広報発行－2	・全道大会札幌大会 11月1～2日	・研究集録発行	・派遣教員研修会、帰国教員報告会、激励会 ・帰国報告集	・広報発行－3 ・研究集録配布 ・研究紀要発行	
会長	・道教委等関係機関挨拶		・道教委研究会開催挨拶		・全国大会参加 ・理事会出席			・全道大会、理事会総会挨拶		・研修会挨拶 ・理事会挨拶	・道教委へ（帰国報告集実践集）	
会議予定	・役員会（事務局組織）	・第1回事務局会（活動計画）		・役員会（研究大会構想） ・第2回事務局会（大会準備）		・第3回事務局会（大会準備）		・理事会総会 ・地区交流会	・第4回事務局会（大会反省、研修会激励会準備）	・理事会総会 ・報告会研修会 ・激励会運営	・第5回事務局会（次年度構想）	・役員会（新年度構想）
庶務	・役員、事務局員委嘱状送付	・第1回事務局会案内発送	・大会1次案内配布	・第2回事務局会案内発送	・大会2次案内配布	・第3回事務局会案内発送	・理事会、研究担当者会案内発送	・大会礼状送付 ・第4回事務局会案内発送	・理事会、帰国報告会、派遣教員研修会激励会案内送付	・第5回事務局会案内発送	・活動の反省と次年度構想	
研究	・研究構想検討 ・ジュニアートキャンプ ・道新との打合	・大会研究担当者との連携	・大会での研究者依頼	・夏の学習会	・実践資料の収集	・次期大会校との研究打ち合わせ開始		・大会での地区研究交流	・大会研究のまとめ	・研修会運営 ・冬の学習会	・研究紀要編集	・研究紀要発行 ・次期大会校との打ち合わせ
組織	・地区名簿送付依頼	・会員名簿作成	・会員名簿配布	・帰国報告集原稿依頼		・帰国報告集編集印刷		・激励会しおり作成	・帰国報告集編集発行	・帰国報告集配布 ・激励会運営	・活動の反省と次年度構想	・研究集録、研究紀要発送
広報		・広報編集会議 ・広報原稿依頼	・広報発行－1	・広報編集会議	・広報原稿依頼		・広報発行－2	・広報編集会議	・広報原稿依頼	・広報発行－3	・活動の反省と次年度構想	
会計	・徴収簿整理	・会費納入依頼 ・新年度徴収簿作成	・会費徴収	・会費徴収 ・帰国報告集広告依頼		・中間決算		・大会会費集金 ・研究書籍販売	・会費納入依頼 ・会費納入礼状 領収書送付	・決算報告 ・監査 ・激励会会計	・活動の反省と次年度構想 ・会費納入督促	・決算引き継ぎ

夏の学習会

- 1, 日 時 平成13年7月26日(木)
13:00~16:00
- 2, 場 所 札幌市立苗穂小学校

3, 内容と日程

13:00	開会式 ・会長あいさつ
13:15	・学習会の内容について
13:15	開発教育に関するアクティビティ ワークショップ4にかかわって
14:30	1, 開会 2, 講師紹介 3, 参加者自己紹介 4, 本日の内容について 5, 学習・打ち合わせ 6, お礼 7, 閉会
14:40	指導案検討会 幼稚園授業 小学校授業(2・3・4・5年) 小学校英語授業(1・6年) 中学校英語授業(2年)
15:50	1, 開会 2, 授業者紹介 3, 参加者自己紹介 4, 本日の内容について 5, 学習・打ち合わせ 6, 閉会
15:50	閉会式 ・研究部より
16:00	・会長あいさつ ・連絡

問い合わせ先

札幌市立真駒内緑小学校 類家 斉

〒005-0014 札幌市南区真駒内南町2丁目2-2

TEL 011-582-2131

FAX 011-582-2053

平成13(2001)年度

第28回全 国 海外子女教育 研究大会(奈良大会)
第12回近畿ブロック 国際理解教育

ご 案 内

大会主題 『同じから異なりへ 21世紀を生きる子どもの育成』

期 日 平成13年(2001)年8月2日(木)～3日(金)

会 場 奈良県文化会館 ・ 奈良県婦人会館

大会記念講演

演題 「国際理解教育の歩みと新しい課題」

グローバルに考え、地域を他文化化する教育

奈良教育大学教授

田 淵 五 十 生 氏

分科会

第1分科会 「海外での教育実践」

- 海外日本人学校や補習授業校などでの教育実践、特に現地理解教育、現地の特性を生かした教育実践などの発表を通し、これからの海外における教育について考えていきたい。

第2分科会 「帰国・外国人児童生徒への取り組み」

- 帰国児童生徒が海外で経験し学んできたことが生かされ、特性が伸ばされていくことや国内の児童生徒との相互啓発により、互いの良いところが認め合えるように、これからの指導・支援のあり方を考えていきたい。
- 国際化が進展し、今後ますます増加する外国人児童生徒達の円滑な受け入れや、彼らと国内の児童生徒が共に異文化を認め合えるような指導・支援のあり方を考えていきたい。

第3分科会 「学校現場における国際理解教育」

- ・ 国際理解をテーマとした『総合的な学習』について、また国際理解教育の大きなねらいである自国の文化理解、多文化理解、人間理解、コミュニケーション能力の育成等について、学校現場における取り組みを発表し合い、これからの国際理解教育のあり方について検討していきたい。

第4分科会 「地域社会での国際理解」

- ・ 教育における学校、家庭、地域の連携が叫ばれて久しい。21世紀は、今まで以上に地域の教育力の果たす役割が大きいものとする。国際理解教育においても、地域の再発見や地域に住んでいる外国人との交流、NGO・NPOとの連携が不可欠になってくるであろう。また、こういった取り組みが『総合的な学習』の視点を広げることにつながると言える。地域の幅広い実践から学んでいきたい。

子どもたちからの発信

学校において、地域において、国際交流や環境保護など様々な活動を積極的に行っている子どもたち。21世紀の国際社会を担う子どもたちに、それぞれのバックグラウンドを基に意見を交換しあい、自分たちの未来をどう作っていくのかを話し合ってもらおうと思います。どうかみなさんも子どもたちと一緒にワークショップにご参加ください。彼らの姿を通して、国際理解教育の新たな道筋がきっと見えてくるはずです。

テーマ	「私たちの未来 - The New WorldProject-」
コメンテーター	地球市民フォーラムなら事務局長 仲川 順子 氏
ファシリテーター	五條市立北宇智小学校教諭 岸本昇（研究部）他
参加者	五條市立北宇智小学校子どもエコクラブのメンバー 海外派遣児童生徒、帰国・外国人児童生徒等

大会事務局

〒 630-8115 奈良市大宮町 4 - 2 2 3 - 1

奈良市立大宮小学校

鶴見 重幸

TEL 0742 - 33 - 0031

FAX 0742 - 33 - 0032

奈良県国際理解教育研究会 URL <http://www.zenkaiken.net/~nara/>

(全海研ホームページ及び、大会事務局案内より)

IEフォーラム

「メディア・リテラシー」という言葉が最近教育現場、特に情報教育の中で注目をあびている。これは、『メディアが形成する「現実」を批判的に読み取るとともに、メディアを使って表現する能力』のことを指す。

メディア・リテラシーは、ほとんど学校の中で取り上げられることは少ない。しかし、これからの国際理解教育を考えていく時、十分に配慮しなければならないであろう。

それは、子供たちが地球市民として「より良い思考」を求められるからである。すなわち、対立的な勝ち負けの問題解決ではなく、グローバルな立場に立った問題解決のためには、「現実」を批判的に読み取り本質を見抜くことが求められるからである。

ここで、注意したいのは、「批判」ではなく「批判的」ということである。批判とは、行為の目的が相手を否定することである。しかし、「批判的」とは行為の目的は考えることであり、よりよい結論をめざすことだと考える。

自分の考えを他者との関わりを通して意識し、そして見掛けに惑わされずに本質を見抜くものへと高めていくというメディア・リテラシーは、国際理解教育を地球市民としての生きる力を育てる場として高める上で重要な柱になりうると考える。



図書紹介



さ ゆ り

(文芸春秋発行)

著者 アーサー・ゴールデン

訳者 小川高義

著者紹介 1956年、テネシー州生まれ。78年にハーバードを卒業。大学在学中から、日本の歴史、とりわけ美術に興味を持ち、何度か日本滞在の後作家となる。

「さゆり」といわれた芸者の半生の物語である。「フジヤマ・ゲイシャ」というと、日本への薄っぺらな常識を表す言葉としてよく使われる。実は書店でこの本を手にとった時よくいう「花柳小説」と思って読んだ。しかし、この小説は、外国人が祇園を舞台にした人間ドラマであり、作者は、この作品を外国人の立場からではなく、「日本女性」の目から書き上げている。したがって日本へのおかしな揶揄はない。

外国人である作者が日本文化を理解し、それを表現する。私はその過程を思い浮かべながらこの小説を読んでしまった。異文化理解とは何をめざしたらよいのか、そんなことを考えさせられた小説であった。

(北海道国際理解教育研究協議会 研究部長 中村 淳)

会費納入のお願い

日頃より本会の活動につきまして、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、納入状況等につきましての照会は、事務局会計澤田崇までお願い申し上げます。

照会先

事務局会計 澤田 崇（札幌市立幌北小学校）

TEL 011-726-2461 FAX 011-716-0944

北海道国際理解教育研究協議会

年会費3000円

郵便振り込みにてお願いいたします。

振込先

澤田 崇

口座番号 02750-4-3409

通信欄には、

氏名、支払い年度、おわかりでしたら会員番号もお書きいただくと幸いです。

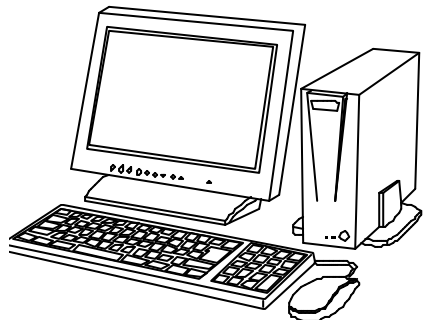
ご意見・ご感想・情報を
お寄せください

北海道国際理解教育研究協議会

E mail kokusai-spk@col.hi-ho.ne.jp

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんの情報をお待ちしております。



発行 北海道国際理解教育研究協議会広報部

会 長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）
事務局長 真木 孝輝（札幌市立もみじ台西小学校長）
広報部長 古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）